

「最新のアリーナで新生・横浜エクセレンス」

2022年1月1日（土）B3 LEAGUE 第13節
横浜エクセレンス VS ベルテックス静岡 横浜武道館
17:00 TO（試合開始） 観衆733名 天候晴れ



↑横浜武道館

外国人選手も書き初め↑

YS横浜フットサルだるま（横浜武道館受付）↑



↑シュートチャレンジコーナー

↑モップ

↑最新のアリーナ

1、「15名の活動者のうち3名が日産スタジアムボランティア、さらに館長は...」

2022年元旦。横浜市のオフィス街・関内におととしオープンしたばかりの横浜武道館。こちらで昨年7月にホームアリーナを移しB2ライセンスが再交付され「東京エクセレンス」から生まれ変わった「横浜エクセレンス」での新年早々新しいことづくめのレポートです。

試合開始4時間前の13時に集合し、検温、体調管理表記入後、15名の仲間と顔合わせです。そのうち3名は日産スタジアムボランティアの「同僚」で、また他のスポーツボランティアと一緒に活動した方がいて新年早々「長くやっているといいこと色々な人と出会えるな!」と思いました。さらに館長は元日産スタジアムのボランティア担当で、わざわざ私の活動場所まで挨拶に来ていただきました。受付を済ませると元旦ということもあり、選手のサイン入りカードと来場者用の抽選券が私たちにもプレゼントされました。

2、26ページの及ぶ丁寧なボランティア運営マニュアル

チームカラーのビブスを着て、控え室でお弁当をいただいた後にボランティア担当の社員の方からの説明がありました。最初に「私たちはバスケットボールというツールでたくさんの人を笑顔に...」というフィロソフィーの紹介がありました。ボランティアに話してくれるチーム、クラブは滅多になく親近感が

もてました。またマニュアルには会場全体図や活動内容、安全対策だけでなく、選手や社長初め12名フロントのフロントスタッフ一覧が顔写真入りで出ていました。ここまで詳しく記載されているマニュアルは初めてでした。チームのボランティアに対する意識の高さを感じると同時に、何かわからないことがあったときも「この人は社員だ」とわかり安心です。10分程度の説明後はアリーナ内一周しながら、トイレ、券種ごとの座席の位置などを説明していただき、配置に分かれ、配置ごとの説明を受けました。座席は黒色に統一されていて、最新の映画館にいるような非日常的な雰囲気でした。

3、シュートチャレンジコーナー

ボランティアの配置は「入場口」「案内誘導」のグループと「グッズ販売」「ファンクラブブース（抽選券の当選引換含む）」「シュートチャレンジ」のグループに分かれ、私は「シュートチャレンジ」の担当になりました。更に「モッパー」が加わります。

シュートチャレンジコーナーは中学生以下のお子さんを対象に、シュート体験をしていただき3回以内にシュートが決まれば、チームのステッカーをプレゼントするというイベントです。バスケット部の中学生から乳幼児が親御さんにだっこしてもらいシュートするなど楽しいイベントで、思わず時間が経つのを忘れてしまいました。TO直前に整列していた選手とたまたま目が合い、ボールをパスすると、かなり離れたところからでしたが、シュートしてくれ粋な計らいをしてくれました。このシーンを見ていた人は私だけで、その選手のファンになってしまったのは言うまでもありません。（TO直前は来場は観客席にいたため）

TO後は抽選券当選の景品の袋詰めをお手伝いしました。試合中もときどきシュートチャレンジに来る人がいて、その合間に持ち場を離れない程度に試合を観ていて飽きることはありませんでした。今日は新ホームでの初勝利で試合終了の30分後の19時30分には終礼、解散となりました。

4、休憩時間に配慮を

本日は2連戦の1試合目で、設営は12月30日に丸一日かけて行われたそうです。2試合目の翌日は試合運営の活動と撤収の活動があり、どちらか片方でも両方でも選択できるとのことです。またモッパーは他の活動と被らずにモッパーだけに専任するシステムとなっています。

他のBリーグも恐らく同じような傾向かと思いますが、活動時間が長くご年配の方もいらっしゃいましたので、試合開始後の休憩時間を増やし、ビブスを脱ぎ休憩しながら観戦できる時間があれば、観戦を楽しむことにも興味を持ってもらえるので良いなと感じました。

横浜に移転後、初めての新年を迎えた横浜エクセレンス。同じくアジアリーグアイスホッケーでも横浜GRITSも一年目でマスコットがアリーナに来られました。Y. S. C. C. 横浜もFリーグで同じ横浜武道館を使用しています。この3チームがタッグを組んで盛り上げていきたいと感じました。